

## オウトウショウジョウバエの発生消長と寄生植物

オウトウ果実に食入するオウトウショウジョウバエの発生消長を調査した結果、年間を通じた発生推移が明らかとなった。

また、オウトウ以外の植物でオウトウショウジョウバエが寄生する植物と寄生時期が明らかとなった。

### 【ベイトトラップによる調査方法】

- ・ 1ℓの無色透明角型ペットボトルの横両面に侵入孔（3cm×4cm）を1か所ずつ設け、直径約3mmの穴の開いたネットを貼り付けた容器を使用する（写真1）。
- ・ 地上約1mの高さに設置する（写真2）。
- ・ 誘引源は、日本酒とハチミツを5：1の割合（重量比）とした混合液で、上記の容器に150ml入れる。



写真1 ベイトトラップの形状



写真2 ベイトトラップの設置状況

### ＜ベイトトラップでの調査上の注意事項＞

- ①ベイトトラップは、オウトウショウジョウバエが活動を始める5月上旬から設置する。
- ②越冬後、最初にサクラ類の果実に寄生するため、サクラ類にベイトトラップを設置すると発生消長を把握しやすい。
- ③調査は5～7日毎に行うことが望ましい。
- ④誘引源は、調査のたびに補充または交換する。
- ⑤オウトウショウジョウバエ以外のショウジョウバエ類や他のチョウ目、アリ等も誘引されるため分類に時間を要する。
- ⑥オウトウショウジョウバエを簡便に分類するには、雄の翅に特徴的な斑紋があるため、その有無により判断できる（写真3）。



写真3 オウトウショウジョウバエ (左：雄、右：雌)

### 【ベイトトラップによる発生消長調査結果】

農業総合研究センター内のヤマザクラにベイトトラップを設置し調査した結果、5月6日に初誘殺され、誘殺盛期は7月2半旬、8月6半旬、10月2半旬であった。また、誘殺は降雪後の12月5半旬まで確認された。総誘殺数は2,574頭であった。

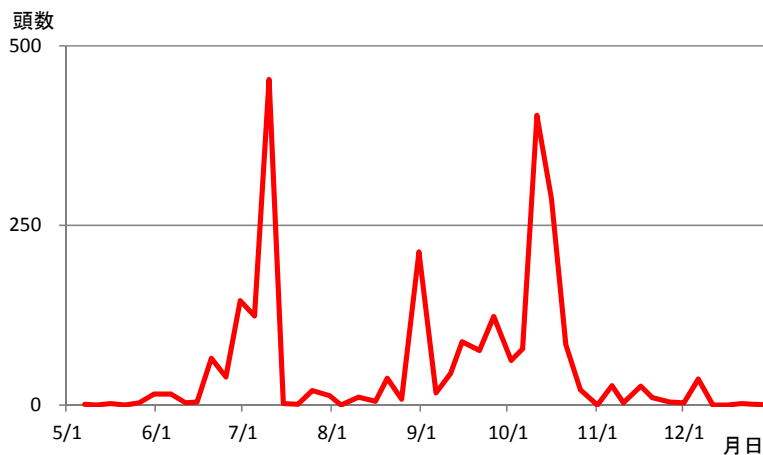


図1 ヤマザクラに設置したベイトトラップによるオウトウショウジョウバエの誘殺消長 (2016年)

### 【オウトウショウジョウバエの寄生植物】

#### ・調査方法

これまで寄生が確認されている植物及び寄生する可能性のある植物の果実を採取し、恒温室 (20℃、14L10D) 内に3週間程度放置後、成虫の羽化状況を調査した。

#### ・調査結果

羽化が確認された植物の果実は、サクラ類、ベリー類、イチイ、ヤマグワ、ノブドウ、ヨウシュヤマゴボウ、ヤマボウシであった。

県内全域で寄生が確認され、オウトウショウジョウバエは野外に広く分布していることが明らかとなった。特に寄生率が高い樹種はサクラ類とヤマボウシで、サクラ類の果実には5月下旬～7月上旬、ヤマボウシの果実には8月下旬～10月中旬に寄生が確認され、オウトウ以外での増殖源になっていると推測された。

問い合わせ先 山形県病害虫防除所 執筆者：土門 清  
Tel : 023-644-4241 e-mail : ybyogaichu@pref.yamagata.jp